

V. 特記事項

1. 先端医療科学研究センターの研究成果と一般公開による地域貢献

先端医療科学研究センター（本研究センター）は、学内組織（本学・大学院保健科学研究科）及び学外組織（医療系他大学、国立研究機関ならびに企業）と密接に連携して先駆的医療科学研究を推進することを目的に平成30年（2018）12月に設置し積極的な研究活動を行っている。学内の附属研究所運営委員会にて審議・承認された専任教員以外の研究者は、2024年4月現在、研究教授8名（常勤1名、非常勤7名）、研究准教授1名（非常勤、研究講師3名（非常勤）、研究員2名（常勤）である。これまで、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などの新興ウイルス感染症に対し、PCR法をはじめとする迅速病原体検査診断法開発、変異株に対する新規検査法の開発、抗ウイルス薬の候補探索、変異株出現・流行予測ならびにワクチン効果予測に関する研究など、国内外において高い研究評価が得られている。主な共同研究は以下の通りである。

- ① 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ及びノロウイルス感染症に対する新規PCR検査・診断試薬の開発（本学・タカラバイオとの共同研究）
- ② 新型コロナウイルスに対する抗ウイルス薬の探索及び分子薬理学機構解明に関する研究（本学・国立感染症研究所・杏林大学との共同研究）
- ③ 新型コロナウイルスの進化とワクチン効果に関する研究（本学・国立感染症研究所・杏林大学との共同研究）
- ④ 非コロナウイルス感染症の病原体網羅解析に関する研究（本学・群馬大学・杏林大学・タカラバイオとの共同研究）
- ⑤ ノロウイルス不活化剤の新規開発に関する研究（本学・ニイタカとの共同研究）
- ⑥ 空間微生物制御装置の開発・改良に関する研究（本学・パナソニックとの共同研究）
- ⑦ 緑膿菌の薬剤耐性機構解明に関する研究（本学・国立感染症研究所・杏林大学との共同研究）

これらの研究成果は、年1回、本研究センター主催による講演会やシンポジウムなどで学生や市民に公開し、地域に貢献できるよう積極的な活動を行っている。

2. ワンランク上の医療専門職・研究者・教育者等を目指すことを可能としている

本学は看護学部（看護学科）、リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科）、医療技術学部（検査技術学科、放射線学科、臨床工学科）の3学部7学科からなる医療系の総合大学で、これまで豊かな教養と人間愛を兼ね備えた国家資格を有する質の高い多くの保健医療専門職の人材を輩出してきている。養成職種数と養成人数（380名）の多さは群馬県内でトップクラスであり、群馬県及び近隣地域の医療の発展に大きく貢献し得るものである。さらに、大学院を併設しており、博士前期課程（看護学領域、病因・病態検査学領域、放射線学領域、臨床工学領域、リハビリテーション学領域、公衆衛生学領域）では、特徴ある教育カリキュラムにより2年間の教育、研究を通して自身の適性に合致した進路を選択することができ、それぞれの領域の修士号を取得できる。また、博士後期課程では、「医療科学」に焦点をあて、病気の予防や健康増進のための科学的エビデンスを構築しながら、国際的に通用する研究者、教育者等の道を歩むこともでき、学生がワンランク上の医療人を目指すことを可能としている。